

まきは通信

第26号

日本基督教団

愛知老人コミュニティーセンター

〒470-0111 日進市米野木町南山987-88

TEL. 0561-74-5548

FAX. 0561-74-5561

ホームページ <http://www.mb.ccnw.ne.jp/makiba>

E-mail makiba@mb.ccnw.ne.jp

発行日 2015年3月13日

発行人 鈴木 卓也

「キリストの愛に生かされて」

愛知老人コミュニティーセンター 運営委員 津示路教会牧師 下村 徹嗣



昨年11月に教会の婦人会の方たちと滋賀県東近江市にある重度知的障がい者の施設「止揚学園」を訪問しました。ここでは入居者、職員あわせて70数名がすべてキリスト者であり、神の家族という感じがそこ、ここに満ち溢れ、実に明るい、やさしい雰囲気にもまれたところでした。

この「止揚学園」は一昨年秋、50周年を迎えました。その記念の集いで親の会の代表者が、「この施設は入居者を終身面倒を見てくださるので、重度の障がいを持った子を残して死ぬに死ねないという思いから解放され、『安心して死ねる』ことが何よりもありがたい」と言われたことを知って感銘を受けました。

「まきは」は有料老人ホームですから「止揚学園」とは比べる対象ではありませんが、一点共通しているところがあります。「まきは」は終身利用と終身介護を原則としており、設備、介護、環境などの面で極めて高い評価を受けています。何よりも施設長はじめ職員の方たちの心からの親身なケアがなされています。周辺には豊かな自然や病院、ホスピス、教会もあり、まさに「止揚学園」のように安心して死ねる施設だということです。

私はこの3月末をもって牧師を辞任し、隠退生活に入ります。いずれ私も夫婦は「まきは」に入居させていただき手続きを10年ほど前に済ませました。それは「まきは」が安心して死ねる施設であるということに絶大な信頼を置いているからです。

さらに私は今回の特集記事にあるように、「まきは」の信仰生活に注目しています。月一回の礼拝、聖餐

式、週一回の聖書集会、賛美の集い、楽しい聖書の学びなど、充実した信仰生活ができるように整えられていることです。私たちは「安心して死ねる」、しかも神の家族の一人として最後まで守られながら、そしてそのさらに向うには何があるのか、希望と期待があります。

聖書には「イエスは言われた。『わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか』(ヨハネ11:25～26)」とあります。すなわち私たちは肉体が減びても永遠の命に生きること、死後も神さまのみもとで安らかに生きることが保証されているのです。なんという恵みでしょうか。

「まきは」へと招かれた入居者やお世話くださる職員をはじめ、ボランティアや地域の皆様が、先立つ主にすべてをお委ねして、日々、喜びと感謝のうちに歩まれますように、御祝福が豊かに降り注ぎますよう祈っております。



▲中庭の雪景色

「まきば」で信仰生活を送って…

「まきば」には、隠退牧師や元牧師配偶者をはじめ、ご入居者の約半数の方々が基督教の信仰を持って日々の生活を送っておられます。日本基督教団のセンターが運営する宗教法人立の老人ホームとして、地上の人生の最後の日まで信仰生活を全うしていただくことができますよう、日常生活の支援や身体介護と併せて信仰生活の支援も大きな役割になっています。今号では「まきば」で信仰生活を送っておられる皆様から、「まきば」の信仰生活支援についてのご意見を伺いました。



戸田 澄子姉(名古屋教会)

「まきば」は基督教の施設なので、いつも主と共にあるという実感があって、日々自然に祈ることができるのが好きです。



「聖書の集い」は、地域のいろんな先生が来て下さるので楽しみです。最近、若い先生も良く勉強していて、楽しく学ぶことができます。職員にも信徒が多く、すごく良くしてくれるので感謝しています。「賛美の集い」も楽しいです。

名古屋教会の牧師や信徒の皆さんがよく訪ねてくださいます。



西崎 史子姉(鵜方教会)

イメージとして持っていた「まきば」は、もっとクリスチャンの人が多く思っていました。「まきば」の集会の中では、毎週金曜日の「聖書の集い」が一番好きです。地域のいろんな先生が代わるがわる来て下さるので、先生ごとにいろんな特徴のあるお話が聞いて新鮮です。若い先生もベテランの先生もそれぞれ強調する部分が違うし、雰囲気も違って楽しいです。三重県からは、親しくしていた加藤幹夫先生が来て下さるのも嬉しいです。



また、第1週の「礼拝」には聖餐式もあるので、毎月2回聖餐が受けられるのも恵みです。普段の生活の中の会話でも、自然に聖書の話が話題に入ってくるところもホッとします。

鵜方教会は遠いので、一年に2回くらいしか帰ることができませんが、たまに出席するのも楽しみです。普段の日曜日は、お隣の南山教会に出席しています。入居している隠退牧師の先生方は、とても親しくしてください。他の施設と違って「自分はクリスチャンです」と堂々と言えるのが嬉しいところです。



島田 麗子姉(聖公会・聖ステパノ教会)

両親が聖公会の信徒だったので、生まれた時に受洗して、そのままずっと信仰を守っています。若い時はYWCAで仕事をしてきたので、プロテスタントの教会のこともよく知っています。だから



「まきば」に来て戸惑ったことはありません。

毎週の「聖書の集い」にも、いろんな先生が来て下さって、様々な話が聞けて喜んでいまして、聖餐式も違和感なくいただいています。時々、司祭様が訪ねてくださいます。クリスマスとイースターには、迎えに来て下さることもあるので、1年に2回から3回は聖ステパノ教会にも出席することができます。

職員と直接信仰の話をすることは少ないけど、皆良い人ばかりで親切にしてくれるので安心です。国際病院の川原先生とは、学生のころから一緒に基督教の活動をしていたので、個人的に親しみがあります。



宮崎 瑠子姉(瀬戸永泉教会)

入居して1年半になりますが信仰生活には恵まれたホームです。体調不良のため教会に行かれませんが「まきば」で月の第1金曜日に礼拝と聖餐式が行われ大変感謝です。



「聖書の集い」で毎週違った先生からみ言葉を聴くのが楽しみです。信者同志の共通の話題をもつ親友もできました。職員の中の熱心なクリスチャンには頭が下がります。時々高岡先生夫妻、教会の友人が来訪され慰められます。前の病院にも同じ教会の医師の信徒がおられ心強いです。

窓の外の輝く十字架にイエスのまなざしの中に生かされている恩寵を覚えます。



森 ヒサ姉(無教会)

子どもの頃は聖公会の教会へ行っていました。日本基督教団大垣教会で受洗しました。結婚してから、夫の東京転勤を機に夫と共に内村鑑三の流れを汲む無教会の集会に出席するようになりました。



「まきば」に来てからも2年くらいの間は伏見にある集会に出ていましたが、遠いので、南山教会にも4~5回行きました。聖日は守らなくてはいけないと思いつつ、今は行かなくなってしまっています。

金曜日毎のお話はお聞きしたいので、「まきば」の行事では「礼拝」が一番大切にしています。「まきば」では、すべての中心に基督教の柱があるので、安心して生活できます。



若山 朝子姉(刈谷教会)

信仰生活を送る上では、ものすごく恵まれていると思います。多くのクリスチャンの皆様と一緒に生活して、静かに祈る時間があります。長く患っていた病が、入居してから完治して健康になってしまいました。ここの生活が合っているのだと思います。



前にある愛知国際病院もキリスト教主義の病院だし、安心して医療と共に日常生活を送ることができています。隠退牧師の先生もいらっしゃいますが、これまでも自宅で家庭集会を持ったりしていたので、あまり意識することなく楽しく交流させていただいています。

刈谷教会の礼拝には月に1度くらい出席して、他の日曜日は南山教会に出席しています。刈谷教会も、時々「まきば」に来て集会を持ってくれるので有難いです。欲を言えば、小グループで祈り合う集会があったらいいと思います。



宮澤 美栄子姉(カトリック岡崎教会)

2人の子どもがカトリック城北橋教会の幼稚園に通っていたことから、主人の両親と一緒に30代の時に受洗しました。それ以来、日曜日はずっと教会へ行っています。



「まきば」に来てからは、カトリックの教会が遠いので、お隣にある日本キリスト教団の南山教会に出席させていただいています。牧師様は神父様に比べて親近感がありますし、家庭をお持ちなので家族の問題なども相談しやすいと思います。一緒に生活している隠退牧師様や奥様も、やさしくて思いやりをお持ちです。

時々、神父様が信徒と一緒にご聖体を持って家庭ミサに来てくださいます。「まきば」の礼拝にも出席させていただいています。ご聖体をいただくということは、何にもまして幸せなので、「まきば」の聖餐式にも抵抗なくご一緒させていただいています。



城崎 幸子姉(南山教会)

「まきば」の設立と同時に入居して18年になります。教会生活を休んでいた夫が「まきば」に来てから南山教会へ通うようになり、人生の最後の時期に教会生活ができたことは何よりも感謝でした。



なるべく迷惑をかけたくないので、今はできる限り自分の力で教会へ行っていますが、もし人の手を借りなくてはならなくなっても行ける間は教会へ行きたいと思っています。

「まきば聖書の集い」は、毎週違った先生のメッセージが聞けるし、多くの先生とかかわることができるので楽しいです。一週間の間に2回も説教が聞ける上、月に2回も聖餐が受けられるのは嬉しいことだし、他の教派の入居者と祈ることができるのも恵みだと思います。

隠退牧師の先生方、それぞれの生き方に触れること

ができて学ぶところがあります。個人的な信仰上の迷いに答えてくださったり、それについての本を貸していただいたりお世話になっています。

聖餐式は最後まで受けたいと願っています。その時は、ソフト食加工をしたパンとぶどう液ではなく、普通の聖餐を希望します。もし喉に詰まって死ぬようなことがあっても、こんな良い死に方ができれば本望です。



谷口 春子姉(カトリック守山教会)

中学生の時、同じ学校にいた信頼する先輩がカトリックの信徒だったので、その影響を受けて洗礼を受けました。「まきば」に入居して17年になります。



当初は毎月1回カトリック平針教会へ、その他の日曜日は日本キリスト教団南山教会へ行っていました。今は、クリスマスや、イースター、ペンテコステの聖日だけカトリック守山教会に行きます。時々、友人が訪ねてきて、部屋で一緒に聖歌を歌ったり祈ったりしています。

カトリックには「ロゴスぶどうの木図書館」というものがある、そこから本を送ってもらったり、毎月雑誌も読んでいます。毎日「ロザリオの祈り」を欠かさないで信仰生活を送っています。

カトリックでもプロテスタントでも、あるいは信仰を持たない人でも、人それぞれ長所も短所もあるので、クリスチャンが多いから生活しやすいと特別に思ったことはありません。日本基督教団が経営するホームだということによって安心感がありますが、信仰面で大きな期待を持って入ったわけではありません。



木村 睦子姉(鳴海教会)

「まきば」に入居してから、鳴海教会にはたまにしか行けないので南山教会に出席することが多くなっています。



鳴海教会は勉強会が多くてまじめな雰囲気がありますが、南山教会はいろいろな面でおおらかな空気があり、それぞれに良い所があります。

「まきば」での「聖書の集い」は、各方面からの先生が来てくださって贅沢な会だと思います。こんな経験は他ではできないことなので感謝しています。森松先生が1対1でお話を聞いて下さる機会があるのはとても恵まれたプログラムだと思います。

「まきば」に入って一番良かったと思うことは、おだやかな方が多くて押しつけが無く、人間関係がかなりうまくいっているところだと思います。それと、たまには篠田先生のメッセージをお聞きしたいと思っています。



「まきば」における信仰生活の支援

シルバーホーム「まきば」が、クリスチャンの信仰生活を支えるために準備している様々なプログラムをここに紹介します。

聖書の集い

第2週から第5週までの金曜日、午前10時半から、メッセージを中心に祈りと賛美で構成される聖書集いです。

メッセージは地域の先生方にご協力いただいて、毎週のプログラムを組んでいます。愛知県はもとより、岐阜県や三重県からお越しいただいています。時には、静岡県や長野県などからお招きすることもあります。



礼拝

教会へ行くことができなくなった信徒の方からの要望で、第1週の金曜日は「礼拝」を行っています。

今は、南山教会の牧師先生を中心をお願いしています。



賛美の集い

南山教会のオルガニスト・小崎厚子姉による「賛美の集い」は、毎月2回の開催で15年以上続いている人気プログラムです。

ノンクリスチャンの方々も多く参加しておられます。簡単な楽器を使い、讃美歌の他、わらべ歌などをご一緒に歌って、楽しく過ごす時間です。



聖餐式

教会まで行くことができなくなった方にも聖餐を受けていただくために、第1金曜日礼拝後に「聖餐式」を始めました。

中部教区を通して日本基督教団総幹事(当時)の同意を得て始めました。聖餐式の理解が難しいご高齢者にも配慮して、礼拝終了後、改めて聖餐式を開始しています。

誤嚥やムセのためにパンや葡萄液が喉を通りにくい方にも安全に聖餐を受けていただくため、ソフト食加工をしたり流動食状にしたパンと葡萄液を準備して、なるべく普段召し上がる介護食に近い状態にして受けていただくようにしています。

介護度の重い方にも無理が無いように、提携医療機関である愛知国際病院理事長(内科医)の助言を受けながら進めています。

ソフト食の作り方は、協力業者である日清医療食品㈱の栄養士や調理インストラクターと協議を重ね、どんな状態の方にも安心して受けていただける聖餐式の執行に努めています。



楽しい聖書

南山教会の浅井淑子姉を講師に迎え、介護室に集う皆様にわかりやすく聖書に親しんでいただくためのプログラムです。

毎回、様々な工夫が凝らされています。もちろん、讃美歌も一緒に歌います。



聖句書道の会

聖書の言葉に、書道を通して親しんでもらおうというプログラムです。

須藤茂明牧師による丁寧なメッセージを聞いて、今日の聖書箇所信仰的理解を深めてから書写を楽しみます。



●要介護者への聖餐や病床聖餐式のために、介護食対応聖餐食材の加工方法についてお知りになりたい方は、シルバーホーム「まきば」までお問い合わせください。

その際、聖餐を受けられる方の状態や、現在の食事状況をお聞きすることがありますのでご了承ください。



クリスマス礼拝

毎年クリスマスには、教団や教区から説教者を招いてクリスマス礼拝をしています。昨年は教団本部から道家総務幹事に、一昨年は長崎総幹事に、その前は石橋教団議長にお越しただいてクリスマスのメッセージを伺いました。

その後、会場を食堂に移し、豪華な料理を囲んで主の降誕を喜んでいきます。センターの運営委員や「まきば通信」の編集委員、近隣施設の代表者も迎えて、楽しいひとときを過ごします。



戸田牧師を囲む会

戸田伊助先生から聖書のお話を聞きながら戸田先生を元気づけようという集まりが、毎週土曜日に「まきば」会議室を会場におこなわれています。

戸田先生と親しい外部の人たちと入居者有志の皆様が集まって、楽しいひとときを過ごしておられます。



職員による聖歌隊

各教会の聖歌隊メンバーを中心に5人の職員で編成する「まきば合唱団」があります。

仕事が終わってから練習を重ね、クリスマスを始め年間数回のコンサートを開いて、入居者の皆様から好評をいただいています。



召天者記念礼拝

毎年4月29日に、これまで天に送った先人を偲んで召天者記念礼拝をおこなっています。礼拝の後、スクリーンに故人の遺影を写し出して思い出を語ります。昨年は、40人を超えるご家族の来訪がありました。

その後、食堂に場所を移して懇談の時を持っています。ご遺族にとっては実家である「まきば」で、久しぶりに会う職員との再会も懐かしんでいただけます。



【近隣施設の協力によるプログラム】

南山教会による聖日礼拝への送迎

日曜日には、皆様それぞれご自分が所属する教会の礼拝に出席されます。しかし、南山教会員と、ご自分の教会へ通うことが難しくなられた方は、牧場を挟んで隣に位置する南山教会がマイクロバスで迎えに来てくださいます。送迎付きで聖日礼拝に出席することができます。

また、水曜日におこなわれる南山教会の聖書研究祈祷会や婦人会主催の行事などに参加するご入居者様もいらっしゃいます。



愛知国際病院聖書集会

真向いにある愛知国際病院では、毎月第1火曜日に「聖書集会」を開催しています。

牧師メッセージを中心にして、入院患者さんや職員の皆さんと一緒に祈りの時を持ちます。「まきば」からも熱心に参加される方がいらっしゃいます。



まきばトピックス

このページは、日本キリスト教団愛知老人コミュニティーセンターが運営する有料老人ホーム、シルバーホーム「まきば」でおこなわれた行事や出来事を紹介するコーナーです。

同志社大学混声合唱団による コンサートがおこなわれました

京都から、40人編成の同志社大学混声合唱団が来訪し、クリスマスコンサートを開催してくださいました。カレッジソングから讃美歌など多彩な曲目を披露、大勢の若くて力強いコーラスに圧倒されました。



名古屋中学校との合同クリスマス礼拝

名古屋学院名古屋中学校の聖歌隊とオーケストラ部の皆様がお越し下さり、一緒にクリスマス礼拝を守りました。今年は、高橋潤校長先生も付き添ってくださいました。礼拝の後、オーケストラ部員の演奏を聴いて交流を図りました。



◀ 学生からの
クリスマスカード



子どもたちの来訪

『声学教室ベルカント』や『小崎厚子ピアノ教室』の子どもたちが訪問して、一緒に演奏会を開いて音楽を楽しみました。かわいい来訪者に、皆様の笑顔が溢れました。



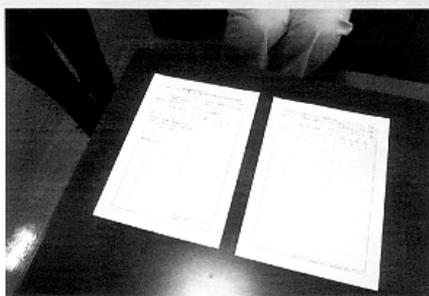
昨年も中秋の名月を楽しみました

屋上へ上がって、恒例のお月見をしました。雲の晴れ間から見事な満月が顔を出すと、皆様から歓声が沸きあがりました。



愛知県の立入調査がありました

8月19日、愛知県健康福祉部高齢福祉課と監査課、日進市合同の立入調査が3年ぶりに行われました。書類の確認から現場の管理状況まで、詳細に亘るチェックを受けましたが、監査課から表記方法変更の指摘が一点あったのみで、愛知県高齢福祉課と日進市からは指導も指摘もありませんでした。



定期開催プログラムを紹介します

「まきば」では、皆様の充実した生活のために様々なプログラムを準備しています。これまで機会を見てご紹介してきましたが、今回は、これまでに紹介する機会がなかったプログラムを取り上げてみました。



●牧師による傾聴プログラム

赤池教会の森松先生が毎月2回、ご入居者の話を聞いてくださるプログラム「話し相手ボランティア」の時間があります。この日を楽しみに待っていてくださる方もいらっしゃいます。ノンクリスチャンの方にも、希望者が多いプログラムとして長く続いています。



●音楽療法

介護予防プログラムの一環として毎月開催しています。アルプスの山岳地帯で育った引き締まった木材から作った、美しい音色のヘルマンハーブというドイツの民族楽器を使って音楽に親しんでいただきます。この楽器は初心者にも扱いやすい親しめる楽器なので、一回のプログラムで一曲を弾けるようになることから、達成感を持って終わることができると思います。最後に、先生による素晴らしい演奏も人気があります。



●気功体操

気功術の隅田先生による「さわやか健康体操」が毎月おこなわれています。介護予防に役立つと評判で、多くの参加者がある人気プログラムです。季節に応じて「血流を良くする体操」とか「免疫力を上げる体操」といった、目的を持った組み立てが人気の秘密のようです。その後、質問コーナーもあり、それぞれ皆様の体調や病気などに応じた課題を次回までの一ヶ月の宿題として提案されることもあります。



●絵本の会

絵本に親しむボランティアの皆様によるプログラムです。毎回、絵本愛好家の皆様5～6人がお越し下さり、童心に帰って絵本の魅力を楽しむ機会を作ってくださいます。絵本をご自分たちでスクリーン大に描いて見やすくして下さるなど、親しみを持って参加できる演出がされています。

ボランティアスタッフの皆様が、「まきば」で開催される元アナウンサーの朗読によるプログラムを見学して勉強をされるなど、プログラム相互の交流を通して熱心に取り組んでおられます。



●お出かけプログラム

介護室での生活時間が長い皆様の楽しみは外出です。レストランで食事をしたり、ショッピングに出かけたり、日常から抜け出す時間を大切にしています。



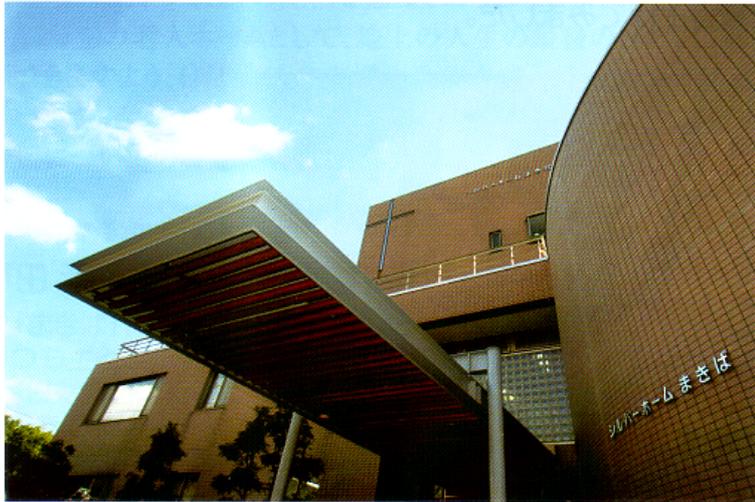
入居予約受付中



日本基督教団 愛知老人コミュニティーセンター
silver home

まきば

見学や体験入居もできます(要予約)



シルバーホーム「まきば」と共に祈りの生活を……
広い牧場を臨み、近くに愛知池があり、
緑豊かな自然に包まれて暮らす…
真向かいに病院があり、牧場をはさんで
教会もあります。

キリスト教プログラム

「礼拝」「聖餐式」「聖書の集い」「賛美の集い」などの
定例集会が毎週施設内であり、自由に参加できます。
主日礼拝出席者のために、日本基督教団南山教会から
バスが迎えに来ます。その他、南山教会の「聖書研究
祈禱会」、真向かいにある愛知国際病院の「聖書集会」
にも自由に出席することができます。

交通機関

名鉄豊田線(名古屋市営地下鉄鶴舞線より直通乗り入れ)黒笹駅から900m
東名高速道路・三好ICから3.4Km 日進市公共巡回バス・南山エピック南から200m

提携医療機関

医療法人財団愛泉会愛知国際病院(内科、外科、整形外科、皮膚科、リハビリテーション科、胃腸科、
神経内科、肛門科、循環器科、リウマチ科、東洋医学科)、武田歯科医院、たかはし眼科

類型及び表示事項

施設の類型/介護付有料老人ホーム(一部住宅型) 居室の権利形態/利用権方式
介護保険/愛知県指定特定施設入居者生活介護・介護予防特定施設入居者生活介護
入居時の要件/60才以上で入居時自立及び要支援の方
居室区分/個室及び二人部屋 介護にかかわる職員体制/2:1以上

パートスタッフ募集

夜勤
看護師

週1日程度から(曜日応相談)

【給与】面談により決定

【資格】看護師、准看護師(年齢不問)

【勤務】18:00~翌8:00

仮眠4時間あり(実働10時間)

【待遇】精動手当支給(月間5日、7日、10日勤務)

介護
職員

週2日~5日

【給与】面談により決定

【資格】介護福祉士、介護職員初任者研修修了(ホームヘルパー)

【勤務】7:00~18:30の間で勤務表による。実働8時間

正職員への任用制度もあります。

これから資格取得を目指している方もご相談下さい。



●交通費全額支給 ※詳細はお電話下さい。(担当:小中)

お問い合わせ先

(宗)日本基督教団 愛知老人コミュニティーセンター シルバーホーム「まきば」

〒470-0111 愛知県日進市米野木町南山987-88

TEL.0561-74-5548 FAX.0561-74-5561 <http://www.mb.ccnw.ne.jp/makiba>

編集後記

私達は、物事の「結果」をみて評価する。この十数年の「まきば」の歩みを振り返るときも、やはりその「結果」にだけ目がゆく。しかし、本当は、結果を生み出すまでの「プロセス」も大切なのである。

“内に燃え続ける”思いを実現するために目標をたて、いろいろな困難や試練が与えられ紆余曲折を繰り返す中で進む。その「プロセス」は、外から見えない。地中深く張った根のようなもので、少しづつ水を吸い上げ成熟のときを待つ。

今、このことを考えるとき「隠退牧師館建設」に向けてのこれまでの皆様の取り組みのことと熱い思いが重なる。

さて、本年はどの様に導かれるのであろうか。

(森岡)

